

「こころと体の不思議」国際フォーラム

「Wonder of the Heart and the Body」 International Forum

キーワード

潜在能力、代替医療、代替・相補・伝統医療、統合医療、予防医科学、気功

1. フォーラム開催の背景と目的

20 世紀までの科学技術は、主として心・精神・意識から独立した、客観的物質世界を研究対象とするというパラダイムを築き、その下に大きな成果をあげてきた。反面、心・精神・意識が関与する様々な現象の研究は、重要にもかかわらず、積極的に研究されずに大きく取り残されてきたと言える。

しかし、21 世紀においては、心・精神・意識の研究が、人間社会にとって重要な研究分野として注目されてきた。この分野には、気功、瞑想、笑い、音楽、香り、森林浴など、人間のリラクセス、予防医科学、健康の維持増進、癒しや自然治癒力など人間の「潜在能力」と関わっているものがたくさんあり、この点から潜在能力を研究することは、多くの人々が待ち望んでいる新しい医療の基礎を研究することにも連なるといえる。さらに、21 世紀の科学技術と文化の新パラダイムを生み出すと共に、教育、健康、福祉と社会および個人の心の豊かさを増進させ、自然と調和した平和な社会作りにも役立つことが期待できる。

この潜在能力の分野の研究を歴史的に見てみると、最近 20～30 年間に、徐々に活発化してきており、1996 年には、潜在能力の科学的研究を行う国際生命情報科学会が設立され、さらに、国際的な代替医療への関心の高まりの中で、1998 年には日本代替相補伝統医療連合会議(JACT)が、2000 年には日本統合医療学会(JIM)が設立され活発な活動を行っている。

一方、海外においても特異能力、気功、代替医療など潜在能力に関する関心が高まり、多くの実践や科学的研究と様々な会議が行われてきた。日本からも多くの研究者や市民が海外の活動への参加や視察、学会への参加や共同研究で交流を深めてきている。

この分野の研究に力を入れている国として米国をあげることができるが、米国の国立衛生研究所(NIH)では、その National Center for Complementary and Alternative Medicine (NCCAM)などを通じ、補完代替医療の研究のため、2003 年度は約 336 億円の予算を計上している。米国以外にも、英国や独国など、ヨーロッパの国々においても、既にこの分野に力を入れて予算を配分している状況である。

本フォーラムは、これらの活動を支えてきた国内外の有力研究者、学会、公的・準公的および民間の諸機関や市民の力を結集して、研究や実践を通じて得られた新しい知見を発表し、学際的・国際的に検討するフォーラムとして、「こころと体の不思議」国際フォーラムの名のもとに企画されたものである。

2. 国際フォーラムの実施概要

「こころと体の不思議」国際フォーラムは、2002年8月22日～24日、千葉市幕張新都心（財）海外職業訓練協会(OVTA)で開催された。

本フォーラム本会議の8月24日は、「こころと体の不思議」と題して広く市民にも参加を呼び掛けた。

参加者は、海外からを含め日本人以外が約30名で、総勢450名と予想をはるかに上回る参加であった。

また、わが国の元大臣、国会議員、衆議院文部科学委員長や日本学会議会員、公的・準公的機関、民間などの要職の方々等、多数の参加があった。

メインテーマは、気功等における特殊生体機能への物理学的・生理学的なアプローチ、超心理学現象、予防医科学、代替・相補・伝統医療、統合医療、変性意識状態と特別な精神的活動などであり、具体的なプログラムメニューは、6人の海外からの招待特別講演を含む、68題の学術的講演や研究発表と海外招待講演者および後援学会代表者による2つのパネルディスカッション、10の表演、ワークショップ、交流(懇親会)等であった。

最終日のサテライト・ワークショップでは、海外から参加された研究者から本フォーラムに対して高い評価を受けた。反面、討論の時間がもっと欲しかったとの意見が多く出たこと、日本の研究に対して高い評価を受けると共に、対照群や西洋的手法をもっと広く取り入れるべきであるとの意見が出されたこと等、反省すべき点もあった。

全般的に、本分野の研究の益々の発展が、予防医学や統合医療の基礎を築き、また新パラダイムを創生する可能性が高いことが確認されたと言える。

なお、多数の参加者から、今回の国際フォーラムの続きの国際フォーラムを継続して行いたいとの要望があり、2004年8月下旬には、韓国ソウルで開催する計画がたてられている。